

授業科目(ナンバリング)	ダイバーシティとグローバル市民論 (AB115)			担当教員	木村勝彦・川上知子		
展開方法	講義	単位数	2	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
個人の尊厳を大切にし、共に協力し合うことによって社会は成熟していく。そのためには、互いの価値観や生き方を認め合い、それぞれの個性を伸ばすことのできる仕組みの構築が求められる。この授業においては、成熟した社会の実現に向けて市民に求められる多様性理解力や、社会の基盤に関する知の獲得を目標とする。							①④⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	専門を生かす際に課題となる対人関係力の基盤を獲得する。				レポート及び授業中の発言	10%	
情報収集、分析力	課題に対する情報を的確に収集し、分析した上で活用する。				レポート及び授業中の発言	10%	
コミュニケーション力	他の受講生の意見を丁寧に聞き、それに対する自分の意見を述べるなど円滑に対話する事ができる。				授業での取り組み	20%	
協働・課題解決力	与えられた課題をグループで役割分担して調べ、解決に向けた討論ができる。				レポート及び授業中の活動	20%	
多様性理解力	社会における多様性を理解し、それを生かした発言や行動ができる。				レポート及び授業中の活動	40%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
この授業の前半では、予習課題に対する各自の結果を活用した意見発表や討議を行う。後半では講義を聞いてレポートにまとめることが中心となる。したがって、評価は、授業への取り組みやレポート提出の状況によって行うものとする。また、レポートに関する全員へのフィードバックは、授業開始時に行う。							
授業の概要							
授業の前半は、担当教員が各回のテーマに従って課題を出し、それをもとにした意見発表等を行う授業となる。後半は、各回のテーマによってゲストスピーカーが替わる授業となる。したがって、いかに講義を聞いて、その内容を的確にまとめるかが問われる。この授業の標準的な1コマ当たりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：荒金雅子（2020）ダイバーシティ&インクルージョン経営、日本規格協会 羽田正（2011）新しい世界史へ——地球市民のための構想、岩波書店（岩波新書） 指定図書：学術会議叢書 29（2022）人文社会科学とジェンダー、公益財団法人 日本学術財団							
授業外における学修及び学生に期待すること							
ダイバーシティという言葉をよく耳にするようになってきたが、その意味・内容を理解している人は少ない。この授業を通して、ダイバーシティが何を意味しているのかをよく理解するとともに、その知見を実際の生活に活かすことができるようになって欲しい。また、市民社会の生活を支えるセーフティネットの諸事項を身近に感じて、それらを十分に生活に活かして欲しい。このためには、十分に時間をかけて毎週の予習レポートを書き上げる必要がある。また、第1回目の授業の予習としてダイバーシティの意味を各自で調べておくこと。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	授業の目標及び内容	この授業全体のオリエンテーションを行う。目標を明確にするとともに、内容や方法について説明する。また、ダイバーシティの意味を考え、共有する。(木村・川上)	ダイバーシティと市民社会の意味を調べる。
2	ダイバーシティと市民社会	ダイバーシティの基本的概念を理解するとともに、市民社会におけるその意義を考える。(木村・川上)	ダイバーシティの歴史について調べる。
3	ダイバーシティ思想の歴史	ダイバーシティという考え方の誕生とその後の経緯について理解する。(木村・川上)	ジェンダーについて調べる。
4	ジェンダーの定義と意義	ジェンダーの概念を理解するとともに女性の社会進出について考える。(木村・川上・荒木)	性におけるマイノリティについて調べる。
5	性におけるマイノリティ	性におけるマイノリティを理解するとともに共生を考える。(木村・川上・荒木)	市民社会における行政の課題について調べる。
6	障がいがある人々についての理解(1)	さまざまな障がいについて理解し、社会の中にどのようなバリアがあるかを考える。(木村・川上)	障がいのある人々との共生について調べる。
7	障がいがある人々についての理解(2)	障がいがある人と障がいがない人との共生はいかにあるべきかを考える。(木村・川上)	多様な人々の共生とはどうあるべきかを調べる。
8	ダイバーシティとインクルージョン、そして共生社会へ(1)	班ごとに、多様性が存在する社会を共生社会とするためには何が必要かを議論し、まとめる。(木村・川上)	班ごとの発表方法を考え、工夫する。
9	ダイバーシティとインクルージョン、そして共生社会へ(2)	班ごとに、共生社会を実現するための提言を発表する。(木村・川上)	市民社会における行政について調べる。
10	市民社会と行政	市民社会における行政の課題と展望について、佐世保を実例として考える。(木村・川上・西本)	市民社会における防犯について考える。
11	市民社会と防犯	治安の仕組みと市民の役割を理解し、市民社会における防犯について考える。(木村・川上)	市民社会における防災について調べる。
12	市民社会と防災	緊急時の救援体制を理解し、市民社会における防災について考える。(木村・川上)	市民社会における消費について調べる。
13	市民社会と消費生活	消費者としての留意点を理解し、市民社会における生活の安全を考える。(木村・川上)	市民社会を目指す政治のあり方について調べる。
14	市民社会と政治	市民社会を目指す政治のあり方について考える。(木村・川上・橋之口)	安全・安心な社会の構築に向けて果たすべき市民の役割についてまとめる。
15	安全・安心な未来社会の構築	市民社会における安全・安心な構築に向けて市民が果たすべき役割を班ごとに考え、発表する。(木村・川上)	課題レポートをまとめ、提出する。